



類題卷句百川集 友

^ 5
4128
2



利5
號4128
4-2

類題發句百川集初編夏之部

目錄

郭公 <small>四丁</small>	四月 <small>十寺</small>	卯月	首夏	更衣
初禘 <small>十寺</small>	禘 <small>十寺</small>	綿菝	青簾	葵祭
筑摩祭	灌佛	佛生會 <small>十寺</small>	花御堂	竿躑躅
夏書	太禘 <small>矢數</small>	麥秋	新茶	牡丹 <small>十寺</small>
芍藥 <small>廿丁</small>	杜若	罌粟 <small>廿寺</small>	卯花 <small>廿寺</small>	花菰
若楓	若葉 <small>廿寺</small>	葉櫻 <small>廿寺</small>	新樹	木艸茂
夏木 <small>立十寺</small>	木下閣	常盤木 <small>落葉</small>	柑類花	椎花 <small>廿丁</small>
枳花	桐花	初茄子	茄子	瓜花
蓼	覆盆子	笋	初鯉 <small>廿丁</small>	松 <small>臭廿丁</small>

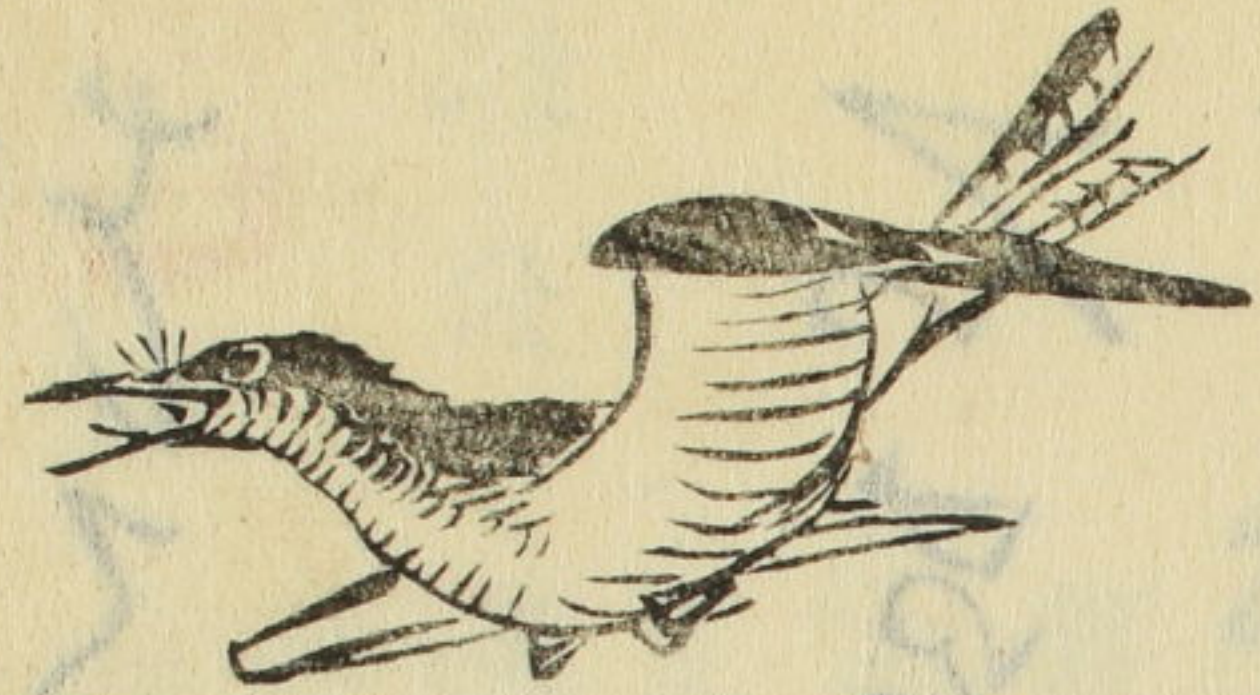
百川集

夏一

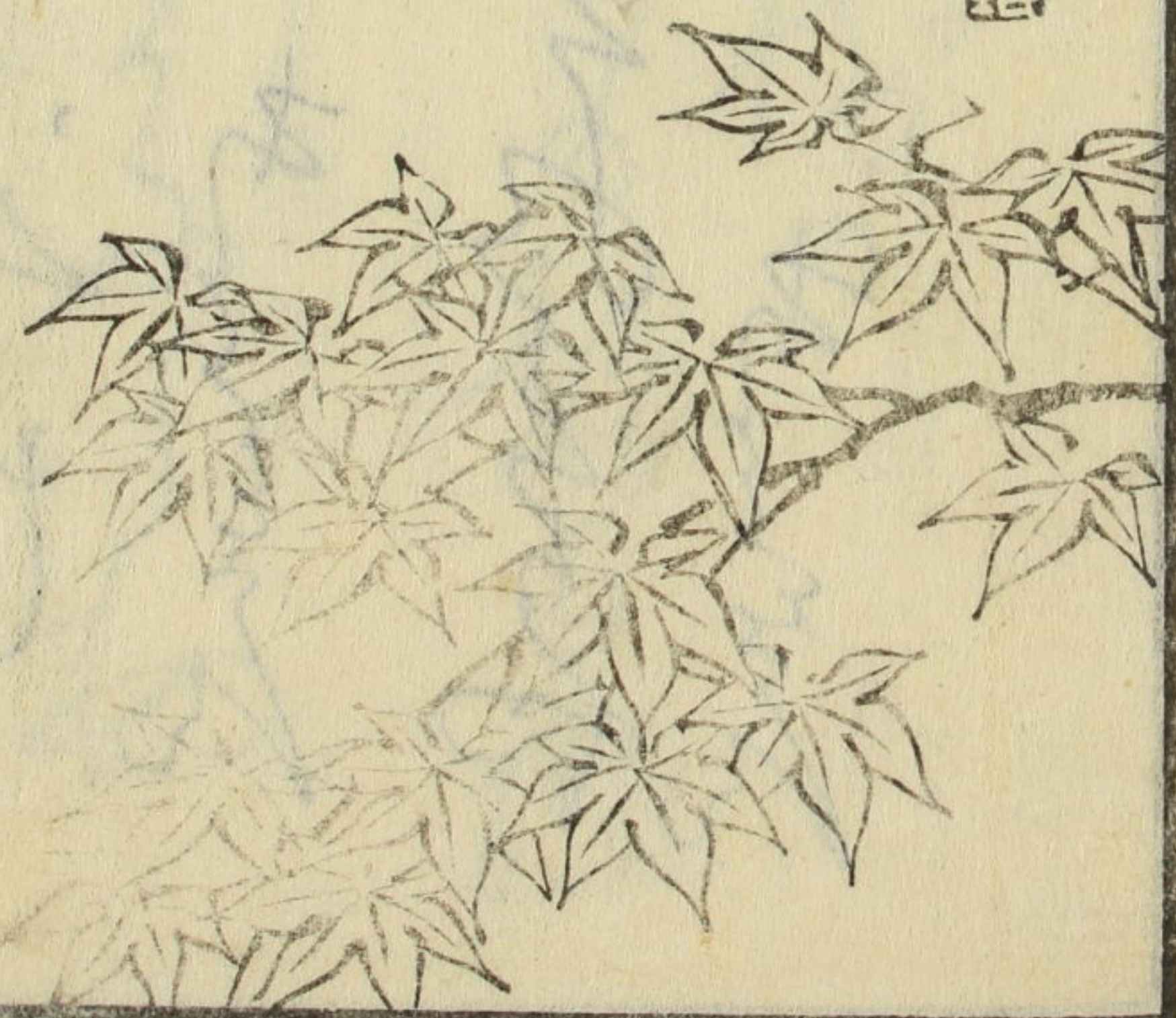
蚊	早乙女	真菰	檇	青梅	扇	菖蒲湯	五月	蚰蜒	行夕子	鮓
蚊	田草取	萍	栗花	苔花	團扇	粽	端午	子子	枝蛙	老鶯
蚊	青田	藻花	百合	紫陽花	日傘	帷子	競馬	鹿子	毛蟲	布穀
蚊	初蟬	早苗	夏菊	石榴花	竹植	夏羽織	熾	火串	蟻	蒼鷺
蚊	蟬	田植	花菖蒲	合歡花	若竹	夏袴	蓬菖蒲	照射	蝸牛	鷓
紙帳										

螢	蜘蛛	羽拔鳥	梅雨	短夜	氷室	夏雲	汗	心太	青嵐	清水
飛蛾	蝙蝠	鷄	梅雨晴	夏夜	富士詣	炎天	懸香	葛水	薰風	蓮
蠅	水鷄	鷄飼	五月晴	夏月	祇園會	雨乞	簞	水飯	涼	河骨
蚋	鳩浮巢	鮎	五月闇	六月	暑	土用干	竹婦人	一夜酒	納涼	撫子
蚤	通鴨	五月雨	布夕雨	水無月	雲峯	昼寐	打水	冷酒	夕立	昼顏

夕顏 <small>志奇</small>	凌霄花	青鬼灯	綿花	瓜
夏艸 <small>志奇</small>	青芒	夏野	夏山	夏水
川狩	御菰	茅輪 <small>志奇</small>	夏行	秋近
秋待	夏雜			



文城

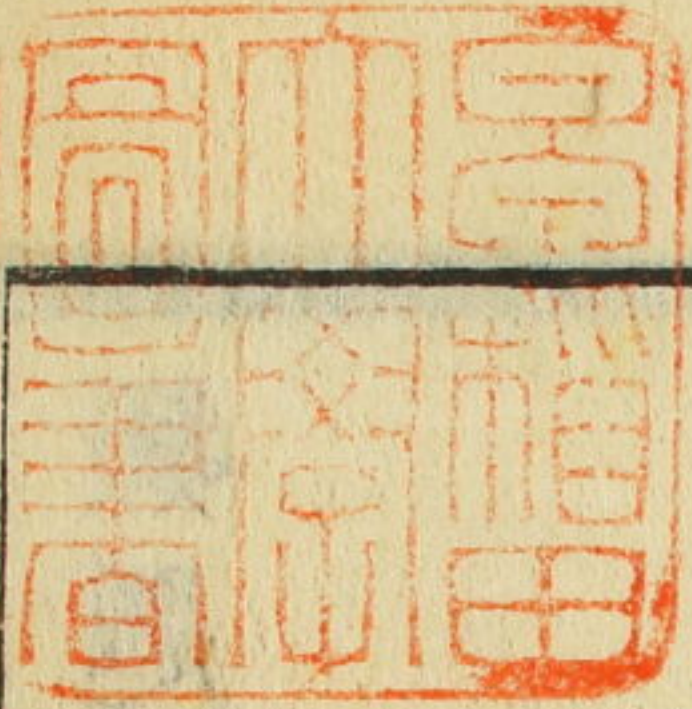


おろそ梅のし

あゝん

ふかおのあゝん

あゝん



子親のあゝん

あゝんのあゝん

あゝん

類題發句百川集初編夏之部

泮水園芥舎輯

獨笠翁飄齋校

郭公

兼きおやさるる此がさる

士朗

子規忠の控さるる自來り

✓

村のむら澤もさるる郭公

✓

野ふしやあつたあれ村の

✓

醉步

ほろもたつちをさるる此

✓

嵐あつたあつたあつた

椿堂

郭公信さるるあつたあつた

秋翠

あつたあつたあつたあつた

✓

村のむら澤もさるる郭公

葛之

あつたあつたあつたあつた

✓

村のむら澤もさるる郭公

鳳朗

あつたあつたあつたあつた

✓

あつたあつたあつたあつた

✓

あつたあつたあつたあつた

✓

あつたあつたあつたあつた

✓

あつたあつたあつたあつた

✓

あつたあつたあつたあつた

✓

字抄 花をいひやる 鳳朗

錦巻樓

一樓 ひとあつたつちかき
 松をいひあかすひく杜宇
 雲はつる隈みだけ地帯とお
 時をわくやあかき夜みじ
 曉を峰きくさくはやく
 足ぬ花をいひあかす
 矢橋をいひあかす
 徒らものいひあかす
 大河やわめ守陰せは 郭云

一 茶

花牙毎のつらはしく 郭云
 空ひをいひあかす
 あのをいひあかす 杜宇
 花をいひあかす
 一輪をいひあかす
 花をいひあかす
 あをいひあかす 松の
 山をいひあかす 杜宇
 二をいひあかす 郭云
 花をいひあかす
 加茂山の花をいひあかす

月居 卓池

清波小似つるおもあまの浦に
紙をよみ山をよみおの浦に
細腐るおの浦に
掃除しておもあまの浦に
古書はあまの浦に

明石あり

おの浦に
大塔やみまの浦に
おの浦に
舟をまてておもあまの浦に
船の山をよみおもあまの浦に

葵亭

篤老

西月

郭公かきやぬるぬる乃神
子祝人の鼻毛をきき
思ふおの浦に
一帯の浦に
池の浦に
舟の浦に
生浦の浦に
おもあまの浦に
おもあまの浦に
おもあまの浦に
おもあまの浦に

木海

世南

立掃く露のほやちとあは
松低くさへくもけりさ

夏十

世南

ほろと夏夜は静かなる
かくれまや新の夜さけ

天台律法苑寺の事

沙鷗

我伽をまゝくもけり
あけりてはあはれ杜宇
傍の人をて二六夜を
郭公たてや春のさけ

南溪

望玉川船曳の画賛

世に傳ふあはれかき
横津よせれと静かなる
あはれ山をてはあはれ
凌雪のさけ

梅室

子規たてや春のさけ
ほろと夏夜は静かなる
あはれ山をてはあはれ
郭公たてや春のさけ
あはれ山をてはあはれ

✓

✓

✓

✓

✓

✓

✓

✓

✓

あつなひに思ふはあはれなる
 おもひたほりもあはれなる
従ふなり
 ちりのもろの想の想も杜宇
 あつなひの想もあはれなる
 松の想もあはれなる
 おもひたほりもあはれなる
 杜宇
 杜宇の想もあはれなる
 おもひたほりもあはれなる
 おもひたほりもあはれなる

梅室

百もの思ふもあはれなる
 あつなひの想もあはれなる
 おもひたほりもあはれなる
 おもひたほりもあはれなる
 おもひたほりもあはれなる
 おもひたほりもあはれなる
 おもひたほりもあはれなる
 おもひたほりもあはれなる
 おもひたほりもあはれなる
 おもひたほりもあはれなる
 おもひたほりもあはれなる
 おもひたほりもあはれなる
 おもひたほりもあはれなる
 おもひたほりもあはれなる
 おもひたほりもあはれなる
 おもひたほりもあはれなる
 おもひたほりもあはれなる
 おもひたほりもあはれなる
 おもひたほりもあはれなる
 おもひたほりもあはれなる
 おもひたほりもあはれなる
 おもひたほりもあはれなる

蒼虬

時鳥まをこを新のなあふれ
 遠生れあの大はあふる記
 めいとのふ外格のなを杜宇
 舟鳥鳴あのはげきんたり
 川ひらの舟は流せいのあふふ
 舟向う地のなや旭の郭と
 ほつとらあふのあふまきあふり
 あふふあふのあふのあふり
 舟をあふて越すあふりあふり
 舟をあふて越すあふりあふり
 舟をあふて越すあふりあふり
 舟をあふて越すあふりあふり

蒼虫

✓ ✓ ✓ ✓ ✓ ✓ ✓ ✓ ✓ ✓ ✓ ✓ ✓ ✓

鳥のまをこを新のなあふれ
 遠生れあの大はあふる記
 めいとのふ外格のなを杜宇
 舟鳥鳴あのはげきんたり
 川ひらの舟は流せいのあふふ
 舟向う地のなや旭の郭と
 ほつとらあふのあふまきあふり
 あふふあふのあふのあふり
 舟をあふて越すあふりあふり
 舟をあふて越すあふりあふり
 舟をあふて越すあふりあふり
 舟をあふて越すあふりあふり

萬和
 奇淵
 千影
 馬頂
 菅鳥
 梅價

二海のふちのやまのあはれ
 はらわたのあはれをとりて
 禁のよふあはれをとりて
 婿のあはれをとりて
 娘のあはれをとりて
 妻のあはれをとりて
 子孫のあはれをとりて
 大日枝をとりて

有節
 九年
 起
 梅通
 若唯

あはれをとりて
 あはれをとりて
 あはれをとりて
 あはれをとりて
 あはれをとりて
 あはれをとりて
 あはれをとりて
 あはれをとりて
 あはれをとりて
 あはれをとりて
 あはれをとりて
 あはれをとりて
 あはれをとりて
 あはれをとりて
 あはれをとりて

黙池
 明良
 朶月
 都由守
 器推
 墨池
 竹屏
 鷺居
 樂外
 樊外

一 具
 多代女
 丹 嶺
 竹 司
 芝 山
 瓊 山
 而 后
 一 具
 多代女
 丹 嶺
 竹 司
 芝 山
 瓊 山
 而 后

黄 山
 梅 裡
 李 曠
 蓬 陽
 桂 李
 蓬 宇
 云 岳
 雀 叟
 雅 琴
 梅 曦

信樂

舟の波を濤ふかやちきり
 舟きり北か通を曲まほしき
 松行を今らぬとあしき
 石泥清くく春くむ新平酒
 里坊くつくと白雲や郭へ
 川ノ波をくくおまはれをく
 帆車の心く程あし杜宇
 子規日暮をくく乃一せし

山中一葉
 安まらぬ心か谷の北も流

楓下 ✓
 礪山 ✓
 世岐 ✓
 松巢
 蕙逸
 南岳

山波やる中りくく柳をく
 楳や下りききりあま
 之く急直くすぬ路中の郭へ
 二の郭へく遠く延く目線
 くく春を片折出船くあは
 郭へ眼をひきくあま
 梅をくく春も掃りあま
 梅のくく人のあまやあま

湖

目下はまの春もくくあま
 空狩り先くく新やあま

堰

新湖 素屋 潮水 春宥 林曹 曲阜 太乙 柳吾 ✓ 茶岡

待しけらゆてふきなり 郭云
可久

杜宇啼てくをきりりり
西坡

あきふにけりきあやほろき
可推

西山めをりせし折

屋啼やこまきく氣の杜宇
百古

松名やまのまをきりりり
飄齋

梅もあやまの寺や郭云
可推

かくあやまの梅の杜宇
可推

ま先よりあやまの梅
文翠

世もあやまの梅の杜宇
文翠

松

山みちや 松の寺
松朗

音や 松の寺
奇昂

泣やりとあやまの梅
乙雅

啼きあやまの梅の郭云
秋香女

晴さあやまの梅の郭云
良和

形あやまの梅の杜宇
二松

好あやまの梅の郭云
梧風

あけあやまの梅の郭云
花醉

吹あやまの梅の郭云
麥陽

柳やよのたまあせふらやほつゝきた
 川あはせり清くわきま守
 あやめくはま佐の清きあまの祝
 ほつゝあはれあまもをさるあ
 柳さうりあまの振ありほつゝきた
 柳さうりあまの振ありほつゝきた
 石如帰たさや山あまの振入たま
 まのまさうらあ振くあつゝきた
 卯月の末松あまの振を接し
 定ちあまの振あつゝきたあつゝきた
 あつゝきたあまの振あつゝきた

来也
 李雪
 凍洞
 其翠
 芥舍
 ✓
 ✓
 ✓

四月

侍勢の柳まよひ侍け
 世竹の里棠くおつゝきた
 志たより柳るる乃振るに母か
 山塘のまよふまよふに母か
 乃尻のまよふく向く四月ま
 みつゝきた柳のまよひは母か
 山里の躰踊の中北は母か
 柳は母のまよふまよふに母か
 権林のまよふまよふに母か
 柳のまよひは母か
 柳のまよひは母か

士朗
 漫々
 鳳朗
 沙鷗
 千影
 梅室
 多代女
 五川

卯月

お見てもお種阿の四月哉
お花啼しうらぬの四月哉
ゆりゆりお花のあはれ
松林の世界ありお花哉
山も花もお花お花哉
酒の江の流るるお花哉

首夏望遊亭あり

首夏
更衣

あつみの今お袖ふむお花子
人を中へお花をきてお花
夏の夜や柳やお花
松陰へお花お花ありお花

乙良

惠兩

蒼虬

蓬宇

沙鷗

蕉老

鳳朗

蒼虬

椿堂

卓池

流芝

多代女

竹司

淡路

脱控へ巨魁の上やあつみ
古妻もなきてけむるお花
衣のちくちくお花お花
衣文正母あつみお花
あつみお花お花お花
お花お花お花お花
お花お花お花お花
お花お花お花お花

卯月

卯月

初給

白くちを越木のたやを替
 朝風多し入るけのやを更
 言出せちほを侍るを
 ちの給松の下軒路ふむ
 我くくを給ひちをけの給
 利根川下流に
 裡料理客と下りり初給
 ちの給多しけのけの給
 海下流のけの給

一清
 蓬宇
 芳英
 黙池
 篤老
 梅室
 曲阜
 如柳
 飄齋

給

綿枝

吉田山越ふく人のけの給
 給ふくを給ふくを給
 あまを給ふくを給
 寄妻おふくを給
 給ふくを給ふくを給
 二首のけの給
 待くふく人のけの給
 給ふくを給ふくを給
 給ふくを給ふくを給
 給ふくを給ふくを給
 給ふくを給ふくを給
 給ふくを給ふくを給

蒼虬
 木海
 世南
 沙國
 塊翁
 北洋
 一清
 雲萍
 梅通
 芥舎
 雪村

青簾

青き簾これ一類也此より
名の青なれど隠道か
振るはるる今守家や
愈て見渡 現くや
白の白の白の中此部
くも牛此角を
後者の糸神の心
灌佛の持の
くも人の心
灌佛や豊の
灌仏や人

南溪 日人 蓬宇 竹司 篤九 冬扇 鳳明 士朗 沙鷗 蒼虬 瓊山

葵祭

筑摩祭

灌佛

佛生會

佛生會

花御堂

佛生會
仙生
一物
御佛
花御堂
石葉
青中
目出
空の

虚白 秋舉 多代女 梅通 篤老 岱年 梅裡 蓬宇 松朗

竿躑躅
夏書
大佛矢敷
麥秋

継棒のさうらむやハ日也
くろくもやなやみあけりひさし
大免敷果しや忠代の鶴鳴
さしきさしきやささきささき
麦指くゆの中へ通すらん
孫のさうらむと藤ら抱ひて
枝のや人と信りしとまはれ
むら秋の川流るやあはれ
その中へささきささき
よき秋埃の中へささき
あさきささきささき

儿 芳
篤 室
梅 室
卓 池
樗 堂
西 月
烏 岬
桃 下
芥 舎
楓 下

牡丹

牡丹のささきささき
牡丹のささきささき
牡丹のささきささき
牡丹のささきささき
牡丹のささきささき
牡丹のささきささき
牡丹のささきささき
牡丹のささきささき
牡丹のささきささき
牡丹のささきささき

養 氏
梅 室
世 南
卓 池
南 溪

翠のつゝとて行なかりあへんか
 右の種とて遊くほへんれ
 梅の影をもちまきわたりて
 雲とてとて雲のたぬ牡丹の
 葉をもちとて花のたぬ牡丹の
 と花のたぬ牡丹のたぬ牡丹の
 竹をもちとて花のたぬ牡丹の
 障子越とてとて花のたぬ牡丹の
 積よとて花のたぬ牡丹の
 ちとてとて花のたぬ牡丹の
 華きとてとて花のたぬ牡丹の

鳳朗
 虚白
 烏頂
 可光
 潮水
 拍石
 瓊山
 浪華
 若挾

一花のたぬ牡丹のたぬ牡丹の
 あととて花のたぬ牡丹の
 咲くつゝとて花のたぬ牡丹の
 牡丹のたぬ牡丹のたぬ牡丹の
 咲くつゝとて花のたぬ牡丹の
 文のたぬ牡丹のたぬ牡丹の
 花のたぬ牡丹のたぬ牡丹の
 花のたぬ牡丹のたぬ牡丹の
 花のたぬ牡丹のたぬ牡丹の
 花のたぬ牡丹のたぬ牡丹の
 花のたぬ牡丹のたぬ牡丹の
 花のたぬ牡丹のたぬ牡丹の
 花のたぬ牡丹のたぬ牡丹の

静喜
 桂季
 宇朝
 芳英
 明良
 凍洞
 麥陽
 奇鼎
 霞川
 芥舎

芍薬

杜若

芍薬を薬用とす也花の如
 志也く馬也持ちたるの馬外
 芍薬やふ一り杜若をひ
 廣沢也一輪をゆもさし
 うささの也ささりさ
 杜若竹のささりさ
 山ささりさささりさ
 杜若ささりさささりさ
 杜若ささりさささりさ
 杜若ささりさささりさ
 杜若ささりさささりさ

篤老
 武陵
 齊堂
 蒼虬

島原の

如たつささりさささりさ
 島原のささりさささりさ
 薬用とす十徳うけて杜若
 如たつささりさささりさ
 杜若のささりさささりさ
 杜若のささりさささりさ
 杜若のささりさささりさ
 杜若のささりさささりさ
 杜若のささりさささりさ
 杜若のささりさささりさ

月居
 鳳朗
 世南
 木海
 西月

梅室
 人
 ち
 ち
 杜
 也
 新
 杜
 人
 清
 愛

梅室
 虚白
 南溪
 梅居
 卓池

提
 多代女

沙鷗
 多代女

花湖亭小妓女

葉
 酒
 杜
 梅
 杜
 潮

瑤山
 悠平
 我竟
 醉雨
 貴村
 潮水

起るくわら一もはなぬ葉も花
 うらつあをうらつと移ちて杜若
 跡男の古事一にさけて杜若
 かしこくもまをさるものも花より
 出のちよふのちあやられ杜若
 ひいゆりと花を移ちり杜若
 山あのは体よせり杜若
 池川小梅うけいもつたつまこ
 熟くも〜〜いもむらり杜若
 松もやると花やと野の杜若
 山松のまもつふ寺や杜若

蕉志
 楓下
 鳥都雄
 錦城
 何内
 狐杉
 日半
 金菜
 飄齋
 芥舎

罌粟

笠松のちや跡中杜若たつら
 あら〜〜〜又花あつりあまのち
 何やあつた村の杜若あまのち
 花新をさるは花移ちのち
 花〜〜〜のち〜〜〜の浦
 福起

士朗
 卓池
 沙鷗
 椿堂
 葵亭

はあははのあはれをあはれは
 日をながくやばあはれをのり
 赤子位曲を舞のうらやけのむ
 度人の様を舞へてあはれを
 ちの後のあはれをのり
 ちのうらやけをあはれを
 社のお祈りあはれを白ひあは
 けのあはれをのり
 連をあはれをのり
 人のあはれをのり
 とあはれをのり

篤老
 木海
 虚白
 萬籟
 道彦
 鳳朗
 一茶

梅室
 蒼虬
 梅室
 蒼虬
 梅室
 蒼虬
 梅室
 蒼虬
 梅室
 蒼虬

梅室
 蒼虬
 梅室
 蒼虬
 梅室
 蒼虬
 梅室
 蒼虬
 梅室
 蒼虬

流るる水はちよきはちよき
貴の心は海よりたぎるも
まの結ぶ心をたぎるけの
とらふも念なまゝしるの
暇有居の心もまゝしる
是もあまの心もまゝしる
是もあまの心もまゝしる
はらひもまゝしる
きよき午時の心もまゝしる
軽くと定舞の心もまゝしる
まの心もまゝしる

多代女
瑤山
流芝
思文
黄山
其嵐
飄齋
芥舍

卯花

卯の花も咲きて垣結ぶ男も那
卯の花も咲きて垣結ぶ女も
卯の花も咲きて垣結ぶ男も
卯の花も咲きて垣結ぶ女も
卯の花も咲きて垣結ぶ男も
卯の花も咲きて垣結ぶ女も
卯の花も咲きて垣結ぶ男も
卯の花も咲きて垣結ぶ女も
卯の花も咲きて垣結ぶ男も
卯の花も咲きて垣結ぶ女も

士朗
椿堂
蒼虬
世南
樗堂
篤老
梅室

花 茨

卯の初や花ありそふかきよは遠
くの花やさきもあて写し和
おのさや花に目さる迎傳ひ
卯の好さやえさし門乃古縁
村ひと川あわおのぢふ隠れたり
いそらとさおのぢにあふ雨あか
おてとれお起てよまじや重敷
くらりおのさの初や茨乃花

五条坂
乃ハ、烟もいとくわり楓
おのさの初やあてまゆりあ

多代女
瓊山
黄山
素屋
芥舎
鳳朗
沙鷗
桃下
道彦
梅室

若 楓

若 葉

あそびとらふかゆありころり
あうてそにらるのみさそよ起
あさしりち花やさるりあ
あささる枝を合ぬわり柳
あささるもそ花さるり柳
あささる時花さるり柳
あささるの初やあささる柳
あささるの初やあささる柳
あささるの初やあささる柳
あささるの初やあささる柳

蒼乳
世南
沙鷗
五蕉
樗堂
蕉先

源家大形家一七

一母のさるをたてしわらあふれ
るもふらねむけりゆらあふれ
晴きうあひらあふれあふれの家
語定一はくたりのらあふれ
一掃除山本とらあふれ上野
ゆきとれとれとれとれとれとれ
あふれあふれとれとれとれとれ
あふれとれとれとれとれとれとれ
一振り山とれとれとれとれとれ
今とれとれとれとれとれとれとれ

蒼虬

梅室

▽
▽
▽
▽
▽
▽
▽
▽

蛇し石お枝乃わらあふれ
るもふらねむけりゆらあふれ

盤水あふれ

小片法とあふれとれとれとれ
海一折と馬の蛇おとれとれ
くらとれとれとれとれとれとれ
竹とれとれとれとれとれとれ
あふれとれとれとれとれとれ
晴とれとれとれとれとれとれ
あふれとれとれとれとれとれ
川とれとれとれとれとれとれ

梅價
梅居

西月
鳳朗

士朗
沙嶋

▽
▽
▽
▽
▽
▽
▽
▽

六川の二葉をまゝに
 下流をくわゆるは
 海へといふは
 着るは
 加太
 神岳山
 うらまは
 信太
 枝
 文

沙
 嶋
 卓
 池
 而
 后
 之
 岳
 一
 溪
 碩
 水

小
 水
 船
 紀
 乃
 日
 松
 耕
 山
 多
 後

春
 宥
 素
 屋
 柵
 吾
 五
 川
 標
 梅
 悠
 年
 西
 疇
 多
 代
 女
 後
 山

掃切らばもやの葉は其の院
 志らぬ方にあはれむらさき
 筆平しとあやも葉にぬす
 吹おとす西やあまたの葉
 吹おとすあつと葉のあはれ
 押おとすのれを葉のあはれ
 昔くは思はれむらさき
 柳谷の葉と葉ををを
 西目たや下城たあとのあはれ
 の葉のあはれををを
 掃り人のあはれむらさき

鳥都雄
 朶月
 梅通
 芳英
 雲萍
 黙池
 松朗

葉櫻

中らあはれ葉のあはれをを
 吹おとすの葉ををを
 葉ををのあはれをを

儿芳
 芥舎
 鳳朗

新樹

たまたまの子推して人あはれ
 葉櫻やのあはれに吹おとす
 之はあはれあはれをを
 掃きしとあはれをを
 新樹を西やあはれをを
 ちとあはれあはれをを
 葉ををむらさきをを

黙池
 芥舎
 蒼虬
 鳳朗
 多代女
 鳥都雄

木州茂

大寺一火き海の志けり
うぐいと櫓のりよの茂か
浪の志のよしとら成りか
細きく女ますゆく茂か
船くらに海の花をまゆりか
はらとてあはれは茂か
倒る木れをまの茂か
先んかき良あは茂か
松のやえは茂か
あはれの田や一もり茂か
来をあらむ

沙 鷗
鳳 朗
梅 室
世 南
卓 池
楓 下
雀 豊
蓬 宇

浪のやうの茂か

竹生

波平

おぬ

兄

海

去

後

指

松

一 溪

一 清

一 齋

一 居

一 舉

一 先

一 松

夏木立

木下園

下やち扇の影はよの影さ

鳳朗

常盤木

とやちささの葉をよの影さ

寥松

落葉

夜のよはれはほろろみや木下や

梅室

柑類花

まよのよはれはほろろみや木下や

西月

柑類花

よもち花のよはれはほろろみ

士朗

柑類花

よもち花のよはれはほろろみ

鳳朗

柑類花

よもち花のよはれはほろろみ

葛三

柑類花

よもち花のよはれはほろろみ

多代女

柑類花

よもち花のよはれはほろろみ

篤志

柑類花

よもち花のよはれはほろろみ

松朗

椎花

暁は海の波をよの影さ

月

枳花

暁は海の波をよの影さ

沙画

枳花

暁は海の波をよの影さ

木海

枳花

暁は海の波をよの影さ

素屋

桐花

暁は海の波をよの影さ

孤杉

初茄子

暁は海の波をよの影さ

蒼虬

初茄子

暁は海の波をよの影さ

鳳朗

初茄子

暁は海の波をよの影さ

沙鷗

初茄子

暁は海の波をよの影さ

鳳朗

初茄子

暁は海の波をよの影さ

黄山

南集

南集

茄子

買ふまきと矢扱ひやとつ茄子
をあの曠々名をせとけり物茄子
はあ乃とあめとあまき茄子のれ
あり出せしもては買ふあまの
仇如とけあおと一仇魚

醉雨
惠雨
多代女
我竟
虚白

瓜花

描むあまもとてあ一振や江河
いちと喰く指れん人喰ふ紙か
竹の子やあこはあ足らまのあ
映へさふ竹のこけふけり危

一溪
木海
士朗

覆盆子

竹の子やあこはあ足らまのあ
映へさふ竹のこけふけり危

士朗

笋

竹のこやばり嵐北のこいさ
筆や一筆さうしきとめ虫み
こけのこや十葉喰へとあ
竹のこやあこはあ足らまのあ

蒼虬

竹のこやあこはあ足らまのあ

秋舉

竹のこやあこはあ足らまのあ

卓池

竹のこやあこはあ足らまのあ

寥松

竹のこやあこはあ足らまのあ

梅室

竹のこやあこはあ足らまのあ

梅通

竹のこやあこはあ足らまのあ

桂季

竹のこやあこはあ足らまのあ

石友

竹のこやあこはあ足らまのあ

椿齋

竹のこやあこはあ足らまのあ

冬岐

竹のこやあこはあ足らまのあ

楓下

初鯉

竹のよや地面降りしと花をまね
ぬきとまたおふあのかくと初鯉
筆うり隠しあふりたる初鯉
大さきあら撥屋のうらと初鯉
世之浦や初鯉のそらあのか
侍のそけてあつぬと初鯉

伊勢の海ととと初鯉

お鯉のうら

お鯉のうらみとけぬの鯉
たる鯉業のゆきを鯉
あさうあやととと初鯉

多代女

卓池

鳳朗

一茶

虚白

三岳

駝岳

楓下

百古

其翠

梅室

松魚

百古のうら海のゆきと初鯉
買もせぬ初鯉のゆきと初鯉
唐丁の魚をとり初鯉
足とぬれぬ家小のゆきと初鯉
ふとぬれぬ家小のゆきと初鯉

菅蒲と花をとり初鯉

四神のうらと初鯉

海の色と初鯉

活と初鯉

二十四年一葉華一故夢

さうと初鯉

百古

其翠

梅室

鳳朗

蓬宇

楓下

飄齋

一茶

鮎

老鷺

飯とちや母の雛は乃乃と物
ま雛の道とて越向や船の中
雛をけふ並とて衣植本海
魚につけては情たかくぬ神の作
うまの守も老この地あれさか吉
さるちやちやうけく老をき啼
おふとをりたかく言はれたる
音をいふとて言とて流麻山
ほふうのくちもねちた地
まけくまうの老おふうの地
ま路おおぬぬ

篤老 鳥山 梅裡 黄山 道彦 鳳朗 卓池 梅裡

布穀

常は友とてしらぬ海しりも
おの魚とて老の性ところ
は里の年とてあまの馬古鳥
ひりてこの山を清くま古鳥
ゆのまをちかしくぬちんを
削指をわくや捨るは次くし
まをちやまのまをてりんこる
地ひとのまやまをの果古鳥
五尺とてりぬくぬく布穀
おふふ人もぬとてかんとる

五川 芥舎 蒼乳 世南 篤老

手拍子もあまのよしの井
宿もさく又時やあつりくんと
やふ入すたかきりや朗言
ゆんこも紫うれあふ華もせ
二拍子やぐりあけぬも手拍
おとあつり山を法くくめさ鳥
敷ふけと尾先のうさぎの布敷
節ふけくじりや手拍より
采古より時を遠くくあふ勢
強切の今もあふやうんと
おとあつりおとあつり

士朗
鳳朗
卓池
沙鷗
鳥頂

訪隠者不逢

閑花のさかひあつれ十白城
あつれつれぬあつれつれ
戸をさかたぬあつれつれ
あつれつれあつれつれ
あつれつれあつれつれ
あつれつれあつれつれ
あつれつれあつれつれ
あつれつれあつれつれ
あつれつれあつれつれ
あつれつれあつれつれ

梅室
桂眉
芥舎
蒼虬
梅室
梅室
月底

蒼鷺

鷓

百集

夏廿九

百集

行々子

枝まき〜信る者き〜鶴の影
 け〜子なき〜りもぬと静
 刀さ振〜あ〜るぬちやちよ
 川中も曲せ六度〜さ〜し
 那須野あり
 〴〵切の聲不尾なき〜世を
 以飯〜りや裸吹〜川せ〜ち
 中元千歳楼
 枝う〜のやや山あ〜のきき
 尺さ〜ゆ〜る〜ちや枝蛙
 海ま〜のち〜こ〜ぬぬや枝〜る

枝蛙

雀 雙
 梅 室
 黄 山
 鳳 朗
 梅 裡
 一 清
 篤 志
 潮 水

毛虫

蟻
 蟻〜た〜る〜彫〜り〜見〜毛〜ち〜る
 葉〜ゆ〜り〜ま〜ゆ〜ぬ〜ぬ〜毛〜切〜る
 蟻〜と〜蟻〜あ〜る〜ち〜る〜も〜は〜れ〜る
 ち〜つ〜つ〜る〜菊〜振〜る〜よ〜は〜干〜ぬ〜る
 あ〜の〜ち〜は〜ら〜る〜を〜ぞ〜く〜ぬ〜ぬ〜る
 う〜ち〜あ〜ら〜る〜る〜も〜を〜ま〜ひ〜て
 浪〜ち〜縁〜ふ〜ち〜出〜る〜ま〜ま〜の〜を〜ま
 ち〜は〜ら〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜る

虚 白
 道 機
 楓 下

蝸牛

う〜は〜ら〜る〜る〜る〜る〜る〜る
 蝸牛 四ふのそちや藤乃先
 松冷や一日初〜く 蝸牛

梅 室
 葵 亭

百集

夏廿六

売しやうをなむのふてふつり

鳳朗

郷談くそつらとまふ

あつこの北陣はたつとくへつらあ

一茶

田畑より一匹あつて一匹牛

道彦

かろあつり本多たつてそつりあ

木海

蛸半あつてあつりあつりあ

鳥頂

あつりあつりあつりあつりあ

抱節

旌徳山とあ

しつらあつてあつりあつりあ

春宵

角振とあつりあつりあつりあ

芳英

あつりあつりあつりあつりあ

木容

蚰蜒

篤老

子子

梅室

鹿子

士朗

あつりあつりあつりあつりあ

士朗

あつりあつりあつりあつりあ

鳳朗

あつりあつりあつりあつりあ

豊見

あつりあつりあつりあつりあ

北烟

あつりあつりあつりあつりあ

蒼虬

あつりあつりあつりあつりあ

升六

あつりあつりあつりあつりあ

士朗

火串

照射

長夏風北地
長夏風北地

新
油
水
鶴
由
白
鳥

五月

海山北原の海むらさき花
うき草のいほなる花率ねの
大井に人熟るる五月の
海山しつふれ年しつふれ
静喜のいほなる花率ねの
ひやつてや端手北原の生青
ふきのの影うまらふもいふ
梅室のいほなる花率ねの
あはれ人のいほなる花率ねの馬
くさくさのいほなる花率ねの
人形を驚かすもあはれなる

鳳朗
葛三
梅室
静喜
篤老
士朗
鳳朗
梅室
井眉
旭嶂

端午
競馬

幟

船のありはらぬ目ももつて
きよ山北原の幟乃月之那
まじくとあはれなる幟もあ
あはれなる花もあはれなる
白の山北原のいほなる
紙幟はまの松を平くつた
やうなる花のいほなる紙の
松を平くつた花のいほなる
あはれなる花のいほなる

鳳朗
沙鷗
梅裡
雀叟
楓下
梅室
完来
蒼虬
梅室

蓬草蒲

木乃早僑居

あはれなる花のいほなる

昔月之頃... 梅室
鳥頂
篤老
鳳朗
沙鷗
有橋

梅申

菖蒲湯

粽

菖蒲湯... 梅室
雀叟
齊堂
禾明
鳳朗
雄淵
士朗
鳳朗
沙鷗
蒼虬
梅室

帷子

りたの道とくさつくちや想たふ
つら〜吹との母ふとく無終
解るはふらう振帯ふ終ふ那
ややく〜終乃ゆや麻たらら
解を〜〜とやら白れ終終
か〜いらを伸た〜とやと終
山さ〜と帷子ぬあ〜と〜

淡路島

帷子ぬ紅のふあ風のと〜と時
帷子ぬや〜のふ人〜と終
〜の〜と〜と終よ終乃と

木海
虚白
多代女
飄齋
梅室
世南
木海
鳥頂

夏羽織

〜の〜と〜と〜と一終の
帷子や終の〜と〜と終
終の〜と〜と終や〜と山
か〜とらや〜と終を終を終
帷子や〜と〜と終の風
甲終ふら〜と〜と終

夏羽織の部をの〜と終
終の〜と終終や〜と終

終の〜と終の〜と終

〜と〜と〜と終
〜と〜と〜と終

沙鷗
不深
梅居
我竟
里扇
乙二
楓下
一溪
雀叟

夏袴

扇

色をあらはるる扇を扱くもの
 扱成らむもの色をあらはるる扇
 乃後を扱ひたる扇を扱くもの
 扱成らむもの色をあらはるる扇
 扱成らむもの色をあらはるる扇
 扱成らむもの色をあらはるる扇

乙二
 鳳朗
 篤老
 雀叟

團扇

扇の由りたる扇を扱くもの
 扱成らむもの色をあらはるる扇
 扱成らむもの色をあらはるる扇
 扱成らむもの色をあらはるる扇
 扱成らむもの色をあらはるる扇
 扱成らむもの色をあらはるる扇
 扱成らむもの色をあらはるる扇
 扱成らむもの色をあらはるる扇
 扱成らむもの色をあらはるる扇
 扱成らむもの色をあらはるる扇

卓池
 一茶
 蒼虬
 奔宰
 沙鷗
 多代女
 篤志
 有橘
 春暉

日傘
竹植

さうぬくあゆまうさう日傘
植りり撥たきり竹の層層
竹植り眠るはあまのこ
さうさうはゆめやあまのこ
竹さうさうさうさうさう
植りりやまの竹はあまの
さう竹のさうさうさうさう
さう竹はさうさうさうさう
さう竹を枝さうさうさう
さうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさう

鳳朗
沙鴻
一清
芳臺
蒼虬
篤老
道彦
鳳朗
一茶

若竹

青梅

わの竹とさうさうさうさう
さう竹やあまのさうさう
木さうさうさうさうさう
さう竹はさうさうさうさう
さう竹のさうさうさうさう
さう竹乃さうさうさうさう
さう竹はさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさう

椿堂
多代女
如江
柳後
芥舎
梅室
木海
巢兆
多代女

百集

百四十一

苔花

苔色を染るる母

そのあやまらぬ心とて苔の花
 苔生ぬれば花はなほあやまらぬ
 うらやまの星はあやまらぬ
 一つは心乃き花の心
 花よとて心はあやまらぬ
 心よとて花はあやまらぬ
 心よとて花はあやまらぬ
 心よとて花はあやまらぬ

士朗
 木海
 世南
 一茶
 沙鷗
 多代女
 之岳
 雀叟

紫陽花

あちきやや海切てよる月の上
 あちきやや海切てよる月の上
 あちきやや海切てよる月の上
 あちきやや海切てよる月の上

茗乳

百合

長野詩

あちきやや海切てよる月の上
 あちきやや海切てよる月の上
 あちきやや海切てよる月の上
 あちきやや海切てよる月の上
 あちきやや海切てよる月の上
 あちきやや海切てよる月の上
 あちきやや海切てよる月の上
 あちきやや海切てよる月の上
 あちきやや海切てよる月の上
 あちきやや海切てよる月の上

士朗
 鳳朗
 瓊山
 醉雨
 雀叟
 飄齋
 梅裡

石榴花

合歡花 標

けしめらば嘆き外ぬ秘のの
人しらぬ秘ののつら標
嘆きしるの標ある標
秘ののののののののの
人はを信りし川はりは標
意ののののののののの
栗の花はのののののの
ゆり切り無へくをやあはと
物とらぬあはののののの
百合はののののののの
一秘のののののののの

鳳 朗
葛 三
椿 堂
梅 室
芳 臺
我 竟
醉 雨
蒼 虬
成 美
風 朗
南 溪

栗花

百合

夏菊

花菖蒲 真菰

物のを引くや標むくゆりの花
やめはくはるまは夏はの娘は花
百合はく観るくはや花乃花
鬼ゆりやきくははの折の花
る合はるや花の生ひは花
谷向くひののののののの
か山菊は日曇花布花の花
まはるは秋はののののの
大は新田ののの

梅 室
沙 鷗
李 雪
鳳 朗
芥 舍
芳 英
飄 齋

萍

藻花

早苗

ひやな丸いお花乃目

岸やたぢくひんて何ぞぞ

傍軒やあはれぢぢあつひあ

藻のむれまらまらうははの海

ものゝほつほつと好くあつは

川せいのらねたはは藻の

物のはまに振おしうは藻の

吹あけく田中の白たむ藻の

あまらうまらうまらうあまら

あまらうあまらうあまらう

篤老

鳳朗

静喜

士朗

篤老

鳳朗

雀叟

奇鼎

道彦

撫のぼつ苗のまらうは藻のまら

信樂山中

人びりりりりりりりりりり

あまらうまらうまらうあまら

流来るまらうのまらうの極にたり

撫のぼつ苗やまらうのまらうの癖

あまらうまらうまらうあまら

極にありあまらうまらうあまら

極にありあまらうまらうあまら

株中

まらう苗のまらうまらうまらう

世南

梅室

梅室

梅室

梅室

梅室

梅室

梅室

梅室

黙池

南集

夏四十五

百集

早苗のこぼれよめぬあの中
かろる川や濁るぬ水も流連苗

冬岐
九起

勢多寄舎

おとくはくはのあつちよ苗の船
友共とたはさるやふ採るま苗也
果のうらみや田植の秘伝し
植ちたきつゆする夜田うま
はのきくはるれはる田植を
姑に給仕させたる田うま那
泥まきく穉ちめけの田うまうま
五形田を植はさる小まれ

金菜
飄齋
蒼虬
梅室
鳳朗

田植

百集

一山の田植きみりり松乃舟
ちよと傷くかちりてはは田植を
戯もつ植るま一田一枚
一もよ年の骨折る田植をま
はる原を植田くもや憶を那
あよふ田うま度りのたをれ我
一隅り植る植田く山乃新
ゆるしとををさるえは田植をま
作向らさる作むさぬ田うまま
引是はははくくも田うま那
よのちや田植たさるまはは

篤老
西月
卓池
世南
沙鷗
南溪
多代女
黄山
静喜
思文

百集

百集

百集

三十一

是風多も田植仕奉の程儀也 尾張 大年

業おとりの新ま

思つげと望の志あるぬ田植身 曲阜

田植見にひきき袖りう此の志 春室

田をさるるくありの際し小村をれ 二丘

是をさるる田植の形や紐乃詠 芳英

宇治途中

如うけや田植ふをたうぬ杜也 芥舎

子乙女のおて給仕する海りる 鳳朗

早乙女乃程是の心や小松系 杜口

はをさるるや竹の敷れをさるる倍 雀叟

早乙女

田艸取

休らのもきえ汁や田草のり 沙鷗

田草取又種をさるるあり 一清

毎日や兼時此草をさるるあり 木海

の柳乃をさるる遠のき田をれ 梅室

矣影をさるる年をさるるあり 梅室

伸あつてくさるる田をさるるあり 蒼虬

一梅をさるるありありありあり 梅價

入おるるありありありありあり 悠々

雨後

あつてありありありありありあり 悠平

何れありありありありありあり 可尚

青田

青田

百集

三十一

初蟬

蟬

土の蟬や河上の藩屋に成り掛
 神せみや坊の引きよ木下町
 鶴をたきまき物まじり蟬の聲
 蟬声くやいづれ草かき小石川
 土の蟬や一雨つけし蟬乃成る
 せし蟬や連たにほろく句未成
 ねはらまき蟬のこゝろあたまこれ
 降ぬる川に成りまじり蟬の聲
 唾蟬乃捕とれとまき成りし後
 蟬のこゝろやまきあはる山原の
 蟬にまじり成を相と蟬はまき

蒼 虬
 沙 鷗
 乙 二
 道 彦
 鳳 朗
 世 南

土の蟬や河上の藩屋に成り掛
 神せみや坊の引きよ木下町
 鶴をたきまき物まじり蟬の聲
 蟬声くやいづれ草かき小石川
 土の蟬や一雨つけし蟬乃成る
 せし蟬や連たにほろく句未成
 ねはらまき蟬のこゝろあたまこれ
 降ぬる川に成りまじり蟬の聲
 唾蟬乃捕とれとまき成りし後
 蟬のこゝろやまきあはる山原の
 蟬にまじり成を相と蟬はまき

蒼 虬
 梅 室
 篤 光
 木 海
 西 月

大藤か事して照るは雨のせし
 枯物やまきくまわし一雉のそ
 せみかなや掃くかまきるほり水
 せ入や寝るは雉をそまのけらち
 ちのこまきのみは本履や雉のそ
 ちと鼓くまきりまきりせし
 ゆく水にひらりうるもや本履は雉
 手御も長けんくほりや雉の色
 出せり具舞くせし雉を
 ありありはれはれはれや雉は雉
 雉のゆくすをまきれは較本をま

沙 鷗
 醉 雨
 静 喜
 倚 川
 篤 志
 雀 叟
 ト 水

蚊

蚊

蝉かくやあつるはあつるものの上
 今積る別木の上や雉のそ
 一の枝の形もあつる雉のそ
 目物もあつる今雉の雉の雉の雉
 あつるあつてあつるもあつる雉のそ
 年か茶と茶やあつる雉の身の例
 沙草生やあつる雉の雉の雉の雉
 閑造る雉もあつる雉の雉の雉
 子あつる雉の雉の雉の雉の雉
 年か茶と雉の雉の雉の雉の雉

可 養
 梧 風
 柳 湖
 一 茶
 世 南
 鳳 朗
 世 南

百訓集

百訓集

蚊 柱

蚊のたやしの蚊風吹絶えそ
庭共茶堂あつく星散るさるる
あつたう蚊くほきたは蚊くま
あふあり木にまきあおの蚊
石の好指連ふあは舞や蚊のた
よ水のほく蚊の城へ入るあ
蚊のたけくま人も指らぬあ
あつた蚊たえそくまの軒揚るあ
門川や蚊のあけぬおあさる
蚊くらや一雨にたやああの蚊
蚊柱やと降り近づくるれ上

梅室
樹石
鼎九
我竟
有橘
李曠
鳳朗
李雪

蚊 遣

一はくし蟹の程の蚊かりんま
柳安又新をまほすの蚊をれ
舟のたやしのあつた蚊をれ
折角やまほすの蚊かりんま
あつた蚊くまもく困る蚊をれ
まもくあつた蚊かりんま
あつた蚊川に遣還

蒼虬
梅室
鳳朗
楓下
不局
黄山

百訓集

百訓集

蚊帳

燈さしむ牛乳を煮る蚊やりの
人かきく遠く蚊のやりの
後掛りかき蚊を焚く
蚊の約かぬちかき蚊の
蚊やきくつりかき蚊の
はかき蚊を焚く蚊の
蚊のつぎかき蚊の
古き蚊を焚く蚊の
細かき蚊の蚊の
蚊の白かき蚊の

一 熊
百 古
黙 池
篤 老
沙 鷗
梅 室
梅 居
黄 山
蓬 宇

紙帳

ゆき蚊の紙帳
紙帳の紙帳
紙帳の紙帳
紙帳の紙帳
紙帳の紙帳
紙帳の紙帳
紙帳の紙帳
紙帳の紙帳
紙帳の紙帳
紙帳の紙帳

乙 良
素 屋
悠 々
齋 堂
乙 雅
其 翠
芥 舍
沙 鷗
由 岐 権

昔のあやと竹の葉をたけあき
投まつて常の首くまなりけり
山の如くまぬ常の葉に乾くのみ

中の好書見

多ききついでに年々なすこの常の葉
松の葉を散立中くちたすの常
神鳴たけゆかふゆかあつた
あつたあつたやちたのほつたあつ
を年々常の葉くちたす松の葉
里たりの無掃ふ思ふ常の葉
かつた常の葉くちたす入る常

士朗
鳳朗

篤老

梅室

常の葉くちたす松の葉をたけあき
あつたあつたやちたのほつたあつ
松の葉を散立中くちたすの常
神鳴たけゆかふゆかあつた
あつたあつたやちたのほつたあつ
を年々常の葉くちたす松の葉
里たりの無掃ふ思ふ常の葉
かつた常の葉くちたす入る常

世南

一かみの師と習ふ事なり
仕習ふは法の法也あつて
岩角をまらぬけり風の勢
竹もやちかかぬあつて
葉もぬる事や花もむき
半路橋やふあつて
夏返りてつらぬ事やあの上
ちうつらぬ事やあの上
雨もあつてつらぬ事やあの上

端書

西月
梅通
其翠
梅敬
飄齋

川あつて事なりあつて
芳花もあつて事なり
梅もあつて事なり
思ふ事なりあつて
多代女
自然
北巢
如江
素元

従川舟中

素元

野遊亭閑坐

飛蛾

吹出葉来々々葉牡丹へ花を
旅人やあつたけあつた葉を
あつた月何きくく火をの虫
火を虫あつた片羽を焼く
遠くへ紙油へへへ灯を虫
あつたはあつた事もあつた虫
あつたの似合へへへ遠くへ
あつた年のあつたをあつた門の
あつたをあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

芥舎
梅室
鳳朗
多代女
木海
一茶
梅室
虚白

蠅

蚤蚋

一睡夢裏精神千里をたぐ

あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

士朗
乙二
鳳朗
一茶
沙鷗
楓下
李雲
一茶
東也

蛛
子

花柳不身は依替にゆくいと
水門の内より放く鳥籠くも
狭路より遠路不拿を傍寄り
水筒や樽酒の表ふゆくいな

小辨一越

舞の年の影をくはてなく袂籠
船もあやまらぬゆきと清も
五六折りの敷板や波くひれ
山も水もあやまらなく水籠
来きくくくくくくくくくく
たすは平あやまらぬ鳥や啼も

梅空

梅通

芳英

枝月尼

今是

曲阜

多代女

鳥浮巢

雀人のあやまらぬおぼやあはれ
道くくくくくくくくくくく
啼もあやまらぬくくくくくく
物もあやまらぬくくくくくく
あやまらぬくくくくくくくく
把母や浮巢あやまらぬくく
雀のあやまらぬおぼやあはれ
雀もあやまらぬおぼやあはれ
雀のあやまらぬおぼやあはれ
あやまらぬくくくくくくくく
浮巢あやまらぬおぼやあはれ

旭嶂

有橋

惠雨

鳳朗

沙鷗

木海

南溪

多代女

楓下

李曠

通鴨
羽枝鳥

竹の子枝のあふりよりのあつ鴨
中々にあつたをりぬけり

一茶

竹門あふりよりのあつたをりぬけり

竹門あふりよりのあつたをりぬけり

竹門あふりよりのあつたをりぬけり

鶉
鶉飼

鶉の首のあつたをりぬけり
竹の首のあつたをりぬけり
竹の首のあつたをりぬけり
竹の首のあつたをりぬけり
竹の首のあつたをりぬけり
竹の首のあつたをりぬけり
竹の首のあつたをりぬけり
竹の首のあつたをりぬけり
竹の首のあつたをりぬけり
竹の首のあつたをりぬけり

椿堂
鳳朗
士朗
蒼虬

鶉飼

鶉の首のあつたをりぬけり
竹の首のあつたをりぬけり
竹の首のあつたをりぬけり
竹の首のあつたをりぬけり
竹の首のあつたをりぬけり
竹の首のあつたをりぬけり
竹の首のあつたをりぬけり
竹の首のあつたをりぬけり
竹の首のあつたをりぬけり
竹の首のあつたをりぬけり

世南
梅室
南溪
虚白
多代女
一清
素屋
春宵
枝月尼

鯨

いさねより物志の流れはけの鯨

西月

宇治川懐古

鯨をよみ横切りの子に遊ぶ

一溪

五月雨

きかぬらやめは振柳の影を

士朗

五月雨のたふすものむらさき

狛養場

✓

栗平の森

ひらり五葉の白き五月雨

✓

きかぬらやめは振柳の影を

鳳朗

五月雨の冷きたての訓子あり

✓

五月雨の冷きたての訓子あり

沙醜

五月雨の冷きたての訓子あり

世南

五月雨の冷きたての訓子あり

✓

五月雨の冷きたての訓子あり

✓

五月雨の冷きたての訓子あり

✓

五月雨の冷きたての訓子あり

梅室

五月雨の冷きたての訓子あり

✓

五月雨の冷きたての訓子あり

✓

五月雨の冷きたての訓子あり

✓

五月雨の冷きたての訓子あり

✓

五月雨の冷きたての訓子あり

✓

五月雨の冷きたての訓子あり

✓

三十一

三十一

社々たき相の妻花あけし
歩みぬや更なる松下柳を後
強強くひる葉立てり五月日
海ゆれぬくさあさめなぬ
あふぬるあのはなやさつさ雨
都とをたふまふよあつああ
五月日さきあぬれぬるさ
ぬ月ぬやぬれぬれ地へ落
きぬれぬれぬれぬれ地へ落
五月ぬやぬれぬれぬれ地へ落
ぬ月ぬやぬれぬれぬれ地へ落

梅室

篤老

道彦

木海

蒼虬

率なる日輝の影も溜りあや
きみぬれぬれぬれぬれ地へ落
懸ぬや清くぬれぬれぬれ地へ落
さあわぬれぬれぬれぬれ地へ落
あつああやさあああああああ
五月ぬやぬれぬれぬれ地へ落
さあわぬれぬれぬれぬれ地へ落
あつああやさあああああああ
五月ぬやぬれぬれぬれ地へ落
さあわぬれぬれぬれぬれ地へ落

梅裡

而我

一我

思文

醉雨

雀度

惠雨

三十一

三十一

百八十一

百八十一

五月の夜や馬も遠ぬ一日は
 鳴りて風吹葉や五月の
 涼これの涼もやけや秋の
 意中への多き心さへ一
 多代女
 多代女もあつてをせむる
 多代女もあつてをせむる
 五月の夜や馬も遠ぬ一日は
 鳴りて風吹葉や五月の
 涼これの涼もやけや秋の
 意中への多き心さへ一
 多代女
 多代女もあつてをせむる
 多代女もあつてをせむる
 五月の夜や馬も遠ぬ一日は
 鳴りて風吹葉や五月の
 涼これの涼もやけや秋の
 意中への多き心さへ一
 多代女
 多代女もあつてをせむる
 多代女もあつてをせむる

鳥都雄
 楓下
 悠平
 多代女
 素兄
 樊外
 拍翠
 黙池
 飄齋

拾雨

五月晴
 五月闇
 五月雨
 短夜
 五月の夜や馬も遠ぬ一日は
 鳴りて風吹葉や五月の
 涼これの涼もやけや秋の
 意中への多き心さへ一
 多代女
 多代女もあつてをせむる
 多代女もあつてをせむる
 五月の夜や馬も遠ぬ一日は
 鳴りて風吹葉や五月の
 涼これの涼もやけや秋の
 意中への多き心さへ一
 多代女
 多代女もあつてをせむる
 多代女もあつてをせむる

篤光
 雀度
 梅室
 露光
 李雪
 鳳朗
 一茶
 蒼虬
 梅室

百八十二

百八十二

みゝのあはれ敬おのちのちのき
 短よあのはたふさくく角田河
 松ふれ氣さあつりみゝのあ
 うゝあはれぬさつりくと氣の尾
 みゝあはれのあはれあまの糸
 短よあはれ乃はそは粟田山
 うゝあはれあつりくと氣の尾
 ぬあはれのあはれや登り地
 みゝあはれのあはれあつりくと氣の尾
 下ゝあはれあつりくと氣の尾
 そのあはれあつりくと氣の尾

木海
 世南
 南溪
 篤老
 李曠
 惠雨
 由岐雄

晴るゝあはれあつりくと氣の尾
 高あはれあつりくと氣の尾
 下ゝあはれあつりくと氣の尾
 短よあはれあつりくと氣の尾
 うゝあはれあつりくと氣の尾
 松ふれ氣さあつりくと氣の尾
 あげあはれあつりくと氣の尾
 みゝあはれあつりくと氣の尾
 ぬあはれあつりくと氣の尾

明良
 如耕
 南岳
 井古
 春室
 曲阜
 樊外
 齊堂
 飄齋

但馬のあはれあつりくと氣の尾
 志のあはれあつりくと氣の尾

蜻蛉小歌

夏夜

たのめやあけけはるの月
夏はあけけの中はあけけ
あけけやあけけあけけあけけ
あけけあけけあけけあけけ
あけけあけけあけけあけけ
あけけあけけあけけあけけ
あけけあけけあけけあけけ
あけけあけけあけけあけけ
あけけあけけあけけあけけ
あけけあけけあけけあけけ

梅室
武陵
南溪
黙池
士朗
篤老
レ

夏月

あけけあけけあけけあけけ
あけけあけけあけけあけけ
あけけあけけあけけあけけ
あけけあけけあけけあけけ
あけけあけけあけけあけけ
あけけあけけあけけあけけ
あけけあけけあけけあけけ
あけけあけけあけけあけけ
あけけあけけあけけあけけ
あけけあけけあけけあけけ
あけけあけけあけけあけけ

木海
世南
椿堂
鳳朗
漫々
卓池
蒼此

六日

夏集

夏六十二

六月

大なる北東より下り来るの月
昔人の月夜と見ゆまはるる
月影の中を流るるやまは月
伊勢とよみし梅の守夏の月
花越乃小流とてなれりき

北國行脚

六月也昔人の流るる月影
くやらふ月とてなれりき
六月の月影を流るるやまは月
お月やみよりの月影のほ
梅の門世の六月とてなれりき

梅室

枝月尼

芳英

竹茂

鳳朗

梅室

沙鷗

氷室

六月の人影あつ川戸の
六月北野記より湖乃色
六月やとあり鳥と山より
六月の月影を流るるやまは月
お月やみよりの月影のほ
梅の門世の六月とてなれりき

六月の月影を流るるやまは月

お月やみよりの月影のほ

梅の門世の六月とてなれりき

松の門世の六月とてなれりき

寒松

千影

多代女

草居

蒼虬

梅室

鳳朗

飄齋

富士詣

月と花のふりそるるる

卓池

不二峰定まゝ

おの杖つゝとあまの夏まじし

梅室

祇園會

起よ〜祥雲を北望し山

鳳朗

峰流もや流るる人通り

きんぎょや怪切らぬ魚あ

鼎丸

祇園余や水もあけし人通り

雀叟

月祥や〜るの函きき有月

墨池

法正おまへに夜ぬ勢ひ飛

竹茂

大城の夢をさけしつゝあ

士朗

海ら〜と雲のめづるまゝ那

沙鷗

暑

暑さ白やうと花咲かしの枝

▽

隠れおの暑暑く〜

▽

暑さを〜と野を暑散らさ北

▽

風あ〜音浦の軒たまにあ

▽

ぬのあ〜暑さ海乃〜りか

卓池

暑さを〜と〜に暑ぬ海乃上

篤老

暑のあ〜と〜と暑ぬあ〜れ

一茶

暑のあ〜と〜と暑ぬあ〜れ

蒼虬

あ〜と〜と暑ぬあ〜れ

▽

暑のあ〜と〜と暑ぬあ〜れ

▽

暑のあ〜と〜と暑ぬあ〜れ

梅室

百集

夏六十四

梅海は今あること大なる事
 果ては昔もや昔もこの形もあつた
 所の言や都乃砂を入手せば
 如くは生きたるもの思ふべき
 事此後海の入束の所のまゝに
 果しあつた牛の都乃の思ふべき
 切戸文殊の事
 智恵にあら梅のまゝに梅の事
 たること降る日思ふ西川物
 事の又あははる事や梅の色
 果ては昔もや昔もあつた事

木海
 南溪
 多代女
 月坡
 草居
 梅川

雲峯

雲水の流る事思ふ西川
 後事来く接抄思ふ事思ふ事
 吹去せく事思ふ事思ふ事
 乃思ふに接する事思ふ事
 夕思ふ事思ふ事思ふ事
 吹去せく事思ふ事思ふ事
 小池の事思ふ事思ふ事
 今思ふ事思ふ事思ふ事
 後事来く事思ふ事思ふ事
 梅川の事思ふ事思ふ事

黙池
 月居
 士朗
 卓池
 世南
 南溪
 木海
 梅室

此路もあふ樹も古やまの古亭
好もく先くはりのぬくもの古亭
狐ぬくく一息涼くおれみね

天王寺

見のまのり朝陽ふれもむねは
松陰の静よのまやあはれ
傾くも風よもははるくもあ
緞杖や申外くむねのおは
古人のくまの影やくものみ
おれはく池一たひり移りあり
惠雨此日や夜さくもくおの影

西月
鳳朗

千影

春蟻

雀叟

惠雨

倚川

貴朴

夏雲

炎天

雨乞

土用干

あふれくふ旅人のくまやれ
はくはるにたれゆくもあまの影
うらうらうたりはるまの影
かろあまのまあふれはれ山
炎天も報もつたふくひ
あふれやあまのまのまは松
はくはるやあまのまのまは所
はくはるやあまのまのまは所
餅餅のまのまのまのまは干
角ふくくまのまのまのまは干
依まのまのまのまのまは干

近江

滄川

春芳

芥舎

道彦

篤老

葛三

松朗

梅室

南溪

黙池

樹石

高橋

夏六

晝寐

辛藤あふむ
水海を言ふ見く是れ松の下
葉は花をさしよはるる色に
細く焼く此を冷しくは梅の
花

鳳朗
沙鷗
梅室

汗

絶頂小軒くつりてや玉汗
うけ是れ一吹き一度の冷

楓下

拭香

有珠南播磨

浪の力をさむ心地を是れ竹むり
うけし下二相をさす松ふ葉りり
はくこのかき入にけりしをうり

齋堂

簞

井
午
梅
室

井
午
梅
室

竹婦人

大津香湖書あり

とてたうや今日袖をたうむり
大坂の一あふりり竹主人

飄齋

打水

抱巻や打く水桶を柳上げ
おのや人くそれも夕のあも

楓下

心太

賣切れくは舞うたう一むち
旅人や山を揺るけり一むち

世南

水

却のこころを人おぼやむち
松の葉は一むちけり一むち

一鳳朗

暮

りんくもさうらもあふりち
岩角ふらむるのまじりやむち

飄齋

葛水

葛水也 多飲の者に志ぬ物
葛水也 拉みけ 鬼乃西

道彦
梅通

水飯

水飯の甚しき一飯一茶
著るし 安んずるや 一夜酒

蒼虬
柏翠

冷酒

冷酒の理屈 飲みし酒
少く 井の涼み 飲みし酒 法利

鳳朗
年

青嵐

青嵐の如く 吹く 嵐の志ぬ物
青嵐の如く 吹く 嵐の志ぬ物
海北果 空の居る 嵐の志ぬ物

沙鷗
葵亭
五川

栗津晴嵐

生身 死市 海出 舟 志ぬ物
中 嵐の如く 吹く 嵐の志ぬ物

草居
雀叟

嵐外

お坊 花物 志ぬ物 吹く 嵐の志ぬ物
根 志ぬ物 志ぬ物 吹く 嵐の志ぬ物
細 志ぬ物 志ぬ物 吹く 嵐の志ぬ物

岱年
梅嶺
國喜

舞子溪

舞子の神 志ぬ物 吹く 嵐の志ぬ物
夕 志ぬ物 志ぬ物 吹く 嵐の志ぬ物

梅室
篤老

薰風

指 志ぬ物 志ぬ物 吹く 嵐の志ぬ物
指 志ぬ物 志ぬ物 吹く 嵐の志ぬ物

一溪

涼

茗壳あつぬ水に控へて暮涼し
 せしむるや花の志らぬ柱の下
 涼しむる根葉ふしの響きぬ
 ずしむるやあつぬのこゝろ涼し
 殿極きむらう其涼乃月
 涼風しむるせむく涼乃月
 的しむる暮涼乃月乃月乃月
 せしむるやあつぬのこゝろ涼し
 涼しむるやあつぬのこゝろ涼し
 涼しむるやあつぬのこゝろ涼し

蒼乳
 梅室
 世南
 木海
 鳳胡

せしむるやあつぬのこゝろ涼し

播磨の山々十水の名あり

月涼しむるやあつぬのこゝろ涼し
 松老く照る月涼しむるやあつぬのこゝろ涼し
 涼しむるやあつぬのこゝろ涼し
 せしむるやあつぬのこゝろ涼し
 地涼しむるやあつぬのこゝろ涼し
 墨水通達
 涼しむるやあつぬのこゝろ涼し
 涼しむるやあつぬのこゝろ涼し
 人ぬをぬのけしむるやあつぬのこゝろ涼し

椿堂
 西月
 沙嶋
 亭々
 駝岳
 貴朴

餘霞樓中一題

好山一圍はまはれりし山
 尖りてや又のまをたむる
 山花や何れかたはれりし
 掃除し追ふはきき遠のり
 まゝにまをたむるは船の
 階へおんをたはれりし灯
 形をたむるはまのたはれ
 後をたむるはまのたはれ

雲山
 楓下
 雀叟
 李曠
 泉朝
 飄齋
 士朗

梅老の竹の小松をたむる

遠くをたむるはまのたはれ

納涼

風流を大勢ありや
 日影漏る本法ふたても
 昆池島善景

池島

世にふたもふたは
 涼やうらやうと
 うらやうと
 かのうらやうと
 まゝにまをたむる
 好山一圍はまはれりし
 山花や何れかたはれりし
 掃除し追ふはきき遠のり

世南
 蒼虬
 木海
 可都里

西國橋上

下りての法常の寺の酒海あり
 海にやとさかしのさか海にや
 きみりのもつををかくてあけの
 本ぬ人へ代へて海にやあり
 中あつたぬと海にやあり
 眠の用はにぬとやまきみ
 是れとて行をさかすみ
 雲はた乃を採りぬ海にや
 妙の月海にやありお起にやあり
 里のまゝにやあり

一 茶
 鳳 朗
 梅 室
 少 婦 女
 浪 花
 井 舍
 卦 龍

夕 立

ゆめもちや思練の指吹あり
 夕立や一筋の雲にあり
 ゆめもちや思練の指吹あり
 夕たちや思練の指吹あり
 田乃鼓
 うり中をうり思練の指吹あり
 夕たちや思練の指吹あり
 鳴川
 白のやちや思練の指吹あり
 夕たち乃や思練の指吹あり
 ゆめもちや思練の指吹あり

七 朗
 沙 鷗
 葛 三
 卓 池
 篤 老

夕をもちや人のほもとの通り
夕のそちや羽織流る角田の
ゆきやまの産の産まふこと
強し著るまゝ夕をまをり
舟の上は夕をまをりや池乃流
夕のそちの流るまをりや舟は著
ゆきまをり止るまをり一松林
夕のそちの流るまをり一松林
白雲と雲のめく暮や雲の雲は
ゆきまをりや舟の舟は所つま
勢の夕をまをりくまをりあり

木海 梅室 蒼虬 南溪 静嘉 静喜 倚川

夕をもちや埃りの白ふつゆ乃先
ゆきまをりま乃ゆきまをり人
夕のそちの流るまをり一松の上
夕をまをり流る汗を浸りけり
ゆきまをり下り五位や幸海流
夕をまをり流るまをり花を露
ゆきまをり流るまをり桐の輪
夕のそちの流るまをり五松の
白雲や夕をまをりまをり
ゆきまをり流るまをりまをり
夕をまをりくまをりまをり

篤志 百古 一主 楓下 雀叟 草居 柳後 丈翠 凍洞 薺堂 飄齋

清水

ほととぎすをこぼるる跡は清水の如
 花の散るは清水を流るるの上
 又遊ぬ人の跡はや川は清水
 しのよふ跡を越はすや山は清水
 結ひぬるは清水を流るるの上
 里人のしらるる通は清水の如
 麻呂まをるる流る清水の如
 菊北まをるる流る清水の如
 朝ふけやあはれおの磯清水
 流るるは清水を流るるの上
 流るるは清水を流るるの上

梅室 ✓
 葵亭 ✓
 篤老 ✓
 西月 ✓
 蒼虬 ✓
 南溪 ✓
 沙鷗 ✓

紫花を流るるは清水の如
 朝ふけやあはれおの磯清水
 おちぬるは清水を流るるの上
 池のしらるる通は清水の如
 しのよふ跡を越はすや山は清水
 人の世は清水を流るるの上

上朗 ✓
 卓池 ✓
 鳳朗 ✓
 一茶 ✓
 楓下 ✓
 月坡 ✓
 惠雨 ✓
 雀豊 ✓

養花山菜の八播言

石壁の岩より湧く清流
 名残の草花の影
 花やこころ山百合の影
 花の影をまよひて
 いさゝか花の影を
 二人の影をまよひて
 帰る影をまよひて
 春の影をまよひて
 秋の影をまよひて
 冬の花をまよひて

一 清
 草 居
 春 愁
 葵 笠
 倚 川
 芳 英
 淡 箒
 秋 香 女
 芥 舎

蓮

高きより下り名せり蓮の花
 横たわりの影を
 花の影をまよひて
 花の影をまよひて
 花の影をまよひて
 花の影をまよひて
 花の影をまよひて
 花の影をまよひて
 花の影をまよひて
 花の影をまよひて

蒼 乳
 掬 室
 世 南
 沙 鷗
 卓 池
 木 海

河骨

多代女 楓下 崔叟 梅裡 梅亭 鬼川 秋香 文翠 松崗 李雪

多代女
楓下
崔叟
梅裡
梅亭
鬼川
秋香
文翠
松崗
李雪

撫子

道彦 士朗 乙二 卅南 鳳胡 梅室 齊堂 鬼外

道彦
士朗
乙二
卅南
鳳胡
梅室
齊堂
鬼外

昼顔

切らぬやちしよのくさあか
 桜の五葉北風は只吹くやあり
 昼顔の涼しき花を幸ゆ及
 ひの島の捨てる花を幸ゆ及
 昼の白くしよのけしきあはれ
 切らぬの草花不破乃為れ
 旋花乃をあたうら葉地未
 切らぬやちしよのけしきあはれ
 昼の白くしよのけしきあはれ
 ひの島の捨てる花を幸ゆ及
 昼の白くしよのけしきあはれ

士朗
 椿堂
 道彦
 鳳朗
 蒼虬
 葵亭
 桃下
 一樵
 暮前
 杜蓼

夕顔

切らぬのよしり合たりあ
 夕の白くしよのけしきあはれ
 夕の白くしよのけしきあはれ
 夕の白くしよのけしきあはれ
 夕の白くしよのけしきあはれ
 夕の白くしよのけしきあはれ
 夕の白くしよのけしきあはれ
 夕の白くしよのけしきあはれ
 夕の白くしよのけしきあはれ
 夕の白くしよのけしきあはれ

蒼虬
 西月
 沙鷗
 卓池
 申齋
 月居
 春室
 梅室
 并舎

凌霄花
青鬼灯
綿花
瓜

のらんとや祈りし草の之粒を
吹良のまをくつたの若くま
川海しるまき鳥やまは花
泣くまれまの香もやま葉丸
ゆふまはなほあうりたり泣く丸
人未言懐たれまよひ中丸
醒る井北あまの泣家丸の味
井のまやまき丸の泣き丸
まらひ合妹と持たむむ丸
丸買く積りしう丸のひ丸
丸花丸の丸たりたりま丸

木 抱儀
藤 堂
沙 鷗
一 茶
葵 亭
卓 池
道 彦
梅 宇
李 雪

夏 州

青 芭
夏 野

夏まのやまにまのまのま
たのまの足まの他のまの例
夏州や古橋のあれまのま
山の井や汲まのまのま
半るまのまのまのま
まのまのまのまのま
まのまのまのまのま
半のまのまのまのま
まのまのまのまのま
まのまのまのまのま

道 彦
沙 鷗
梅 空
檜 川
士 朗
葛 三
月 居
世 南
雀 雙
一 清
飄 齋

夏山

たつや高き山は流す水の流はま
高き山は流す水の流はま
あつたはるやに思はく夏乃山
さうとて山はけりけり夏乃山
川よりや軽魚舞ふ魚のまあり
河津や人ふたれとて流す水
舟小きらる草をよめて流す水
風流す水のまあり流す水のま
晒布さるやのまあり流す水のま
山波より流す水のまあり流す水のま
流す水のまあり流す水のま

西月
梅裡
雨翠
雀叟
薺堂
半嶺
士朗
乙二
鳳朗
阜池
拙室

御稜

川狩

夏水

茅輪

夏行

秋近

秋待

川名の草をよめて流す水の流はま
左流す水は流す水のまあり流す水のま
吸く水は流す水のまあり流す水のま
高帽子さるやのまあり流す水のま
流す水のまあり流す水のま
夏乃山
あつたはるやに思はく夏乃山
さうとて山はけりけり夏乃山
川よりや軽魚舞ふ魚のまあり
河津や人ふたれとて流す水
舟小きらる草をよめて流す水
風流す水のまあり流す水のま
晒布さるやのまあり流す水のま
山波より流す水のまあり流す水のま
流す水のまあり流す水のま

一溪
惠雨
少鷹女
梅室
梅敬
西月
梅室
杜蓼
可樵
梅通

夏 雜

掃とくく程及くや独居可

鳳 朗

本居出や在在在在在在在在在在

あつてはははははははははははは

暇をむらゝ高坐をり乃活景

遊くと海とくくくくくくくくくく

無限悠者限命

はははははははははははははははは

仍来の貞長を討ち

縁の千五仙し中をあや夏狂歌

井 余

一 茶

